

長野県新産帰化植物ハナハマセンブリ *Centaureum tenuiflorum* (Hoffmanns. et Link) Fritsch の報告

星山 耕一*

2018年7月13日白馬村北城落倉の県道沿いでハナハマセンブリを確認したので長野県新産帰化植物として報告する。生育地はススキなどのイネ科植物がまばらに生える草地に約50株見られた。

ハナハマセンブリ *Centaureum tenuiflorum* (Hoffmanns. et Link) Fritsch はリンドウ科に属し、ヨーロッパ原産の帰化植物で北部フランスから南部、西部ヨーロッパに分布する。日本で最初に確認されたのは1981年の神奈川県横浜市中区山下埠頭である。その後、近県では富山県(太田ら1997)、新潟県(木村2004)、愛知県(2017)などの報告がある。

ハナハマセンブリは高さ35cm前後になる1年草で、根生葉は不明瞭か時にない。茎の上部に2出集散花序をつけ、茎は鋭角に斜上する。茎葉は対生し、長さ1.5-3.0cm、幅0.5-1.0cm、倒卵状長楕円形または卵状披針形で鋭頭。花はピンクで、苞葉の腋に1個ずつつき、長さ10-12mmで短い小花柄がある。花は萼筒より長く超出し、花冠は5裂、裂片は長さ

3-4mm、幅1.2mm、萼裂片は花筒の約1/2。蒴果は萼とほぼ同長、種子は細かく、径約0.2mm。

同属にベニバナセンブリ *C. entaurium* Raf. がある。こちらは越年草でロゼットで冬を越し、翌年開花するので、開花株の周辺にロゼットが見られることが多い。根生葉は大きく、へら状楕円形で円頭、裂片は幅広く、裂片と花筒がほぼ同長、花冠の中央が白くならない。種子は径約0.3mm。ヨーロッパ原産でやや乾燥した草地や砂地を好み、日本には1960年頃に帰化し(清水2003)、北海道、本州(宮城県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、山口県)、四国(香川県)、九州(長崎県)で生育が知られている(太刀掛・中村2007)。

標本番号: NAC 190417

採集地: 長野県白馬村北城落倉 820m

採集日: 2018年7月13日

採集者: 星山耕一



写真1 生育地の状況



写真2 ハナハマセンブリの花

* 星山 耕一 〒420-0885

静岡県静岡市葵区大岩町 2-10-202

謝辞

本報告の作成にあたり、同定については松本市の藤田淳一氏に、さらに長野市の大塚孝一氏には報告のまとめに際しアドバイスをいただきました。長野県環境保全研究所の尾関雅章氏には標本の登録に際しお世話になりました。

参考文献

太田道人・大原隆明・武田宏（1997）ハナハマセンブリ（*Centaurium tenuiflorum*）富山県に帰化. 富山市化学文化センター研究報告第 20 号:

105.

清水建美編（2003）日本の帰化植物. 平凡社.

木村彰（2004）越後の植物観察記（その 1）. 新津植物資料室年報 2003. 16-17.

太刀掛優・中村慎吾（2007）改訂増補 帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会.

愛知県環境部自然環境課編（2017）愛知県の生物多様性 グリーンデータブックあいち 2017 - 維管束植物編-. 352pp. 愛知県環境部自然環境課.

神奈川県植物誌調査会編（2018）神奈川県植物誌 2018 電子版. 1803pp. 神奈川県植物誌調査会.